

学校教育目標	◆すなおな明るい元気な子 ◆よく考えやりぬく子 ◆なかよく力をあわせる子 ◆自然に親しむ子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	○「ホンとのチカラ清四小」とのキャッチコピーのもと、読書活動を充実させ、言葉の力を豊かに磨く児童を育成する。 ○フィールドワークの充実により、自然環境について興味・関心を高め、自然や郷土を愛する精神を培う。 ○本校独自の清四漢検に取り組み、既習の漢字を確実に習得できるように学び直しの習慣をつけ、語彙力の育成を図る。 ○CS、学校支援本部との連携を深め、地域の人的・物的な資源を組織的に把握・整理し、地域の教育力を活用する。
目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 「信頼」を柱とし、安心感・達成感を通して「生きる力」を育む学校 【目指す児童・生徒像】 ◆「仲間」「先生」「自然」が大好きな笑顔が光る児童 【目指す教師像】 ◆「共生」と「自立」の心を育てる教師		
前年度までの学校経営上の成果と課題			

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
命の教育	「にこにこ班」活動を通して、集団遊びや奉仕活動を協力して行う取り組みを充実させる。	4	4	児童・保護者の評価が高く、異学年交流が子供たちの前向きな姿勢につながっている。一方で、低学年の主体性向上や縦割り班活動の工夫が次年度の課題として期待される。	異学年交流の成果を生かし、低学年の主体性を高めるために、活動内容や役割を工夫し達成感を得られる機会を増やす。縦割り班では高学年が支えながら低学年が意見を出しやすい環境を整え、年間を通じて学年を超えた協働を深めていく。
	いじめ調査を隔月で実施し、実態を把握して早期発見・早期対応するとともに、未然防止のための指導を行う。	4	3	アンケート結果をもとに丁寧な聞き取りと即時対応を行ってきた。その結果、児童は些細なことでもアンケートに記入するようになってきた。今後も軽微ないじめを見逃さず、継続して取り組んでいく。	児童が安心して自分の思いや考えを表明できる環境を維持しつつ、アンケート結果の分析をさらに深め、傾向を踏まえた未然防止指導を充実させる。教職員間で情報共有を徹底し、軽微な兆候にも迅速に対応できる体制を強化する。
学力向上	地域の図書館を活用して学級文庫を充実させたり、朝読書タイムの時間を利用したりして、読書の機会を確保する。	4	3	清瀬市立図書館の団体貸出やおうち図書館を活用し、児童がいつでも本に親しめる環境を整えてきた。今後は家庭での読書習慣の定着を目指し、家庭との連携を進めていく。	学校と家庭が連携し、読書の楽しさを共有できる取組を進める。家庭向けのおすすめ図書紹介や読書記録の活用を通して、家庭での読書習慣を促す。地域図書館との協力も継続し、児童が多様な本に触れられる環境をさらに充実させる。
	主体的に「清四漢検」に取り組みせ、それぞれの受検級合格に向けた指導を行う。	4	4	児童が主体的に学習に取り組み、漢字力の定着が高まった。一方で、学習意欲に差が見られる面もあった。次年度は個々の目標を明確にし、意欲を高める工夫を重ねながら継続的な学習を促していく。	「漢検チャレンジ」などの取組で児童の意欲が高まり、成果が見られる。今後は学習意欲の差を埋めるため、個々の目標設定や支援の工夫が期待される。
体力向上	運動意欲を向上させる授業づくりや運動時間の確保を図り、体育授業における指導方法を工夫する。	4	3	どの学級においても、体育授業で運動量の確保に努めてきた。今後は持久力や俊敏性に課題があるため、持久走や縄跳びなどに重点を置いた指導を進めていく。	児童の多くが意欲的に体を動かし、体育授業を通じた体力向上の成果が見られる。今後は持久力や俊敏性など個別課題への重点的な指導が期待される。
	「健康大作戦」の取組を通して、生活習慣の確立と食育を推進する。	4	3	健康や食への関心が高まり、生活習慣が定着してきた。一方で高学年ほど生活リズムが乱れがちで、家庭での取組にも差がある。次年度は家庭との連携をさらに深め、実践的な活動の充実を図る。	生活習慣は概ね定着し、保護者・児童の評価も高い。高学年の生活リズムの乱れや家庭間の差に対し、家庭との連携と啓発を一層進めることが望まれる。
地域とともに育つ学校づくり	満足度を数値化して変化を読み取ったり、自由記述欄で幅広く意見を聞いたりする。	4	4	保護者への行事ごとのアンケートで選択式設問を設け、満足度を数値化して可視化を図った。一方で自由記述欄の活用が十分でなかったため、今後はその活用方法を工夫していく。	保護者の意見を丁寧に受け止める姿勢が高く評価され、肯定率も高い。今後は自由記述欄の活用を工夫し、より多角的な意見収集に努めることが望まれる。
	地域人材の活用を積極的に行う。	4	4	ゲストティーチャーを活用した学習活動を積極的に行った。また、読み聞かせボランティアなど地域人材の活用や近隣の大学との連携も深めることができた。今後もがら取組を継続していく。	ゲストティーチャーや読み聞かせボランティアの活用が児童の満足度向上に結びついている。情報発信も地域の関心を高め、多様な学びの機会が広がっている。
個に応じた支援	個に応じた指導やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を図る。	4	4	全教員が、すべての児童に分かりやすく学びやすい授業づくりを目指し、教材研究や指導方法の工夫に努めてきた。今後は児童の理解に応じた支援を充実させ、指導力と授業の質の向上を図っていく。	児童の多くが学びやすさを実感しており、教員の丁寧な指導が浸透している。授業改善の成果が表れ、今後は理解度に応じた支援と質の向上が期待される。
	授業改善のためのチェックリストを活用し、全教員が自己評価するとともに、授業改善に努める。	4	3	管理職による授業観察の際、チェックリストを活用し、視点を明確にした授業観察を行った。授業後のフィードバックや自己評価をととして、全教員が授業改善に努めることができた。	チェックリストを活用した客観的な振り返りにより、指導力の平準化が進んでいる。肯定的評価も高く、学習意欲の向上に成果が見られる。